

2大会ぶい2度目V

4年前と同じメンバー

永井と成松が勝利に貢献

《九州インタークラブ競技》

トータル24オーバー 384

フェニックスCC（宮崎県）



4年経っても優勝メンバーは変わらない。2019年の白杵CC（大分県）での「第49回九州インタークラブ競技」でフェニックスCCは宮崎県勢として初優勝に輝いたのだが、コロナ禍を挟んで、その時の6人（永井勝己、成松和幸、山内浩二、乙守修、本田豊明、宮島孝美）と今回の顔ぶれが全く一緒。さらに、今年の2位は大分竹中CCだが、4年前も同じ相手だった。前回の成績がトータル22オーバーの382、今回が24オーバーの384。

コースは異なっても、数字的にもあまり変わらない。

「最高に幸せです。宮崎県がチャンピオンになって嬉しい。個人個人が力を出してくれました。もう1回、このメンバーでチャンピオンになろう、と言ってたんです」と永井キャプテンが喜びをかみしめた。スコアは1オーバー73で、同スコアの成松とともにチームの優勝に貢献した。その成松は「金メダルが3個目。難しいグリーンだったけど、今日はアプローチが良かった」と2019年の九州シニアと2度のインタークラブ制覇での金メダル3個に目を細めた。実は10月28、29日の福岡シニアオープンに出場した際、腰痛のために初日終了後に棄権。クラブを1週間握らず、この日もコルセットを巻いてのプレーだったが、そこはベテランの技でチームを助けた。

チーム構成のための倶楽部内での予選会は4～6月までの3カ月間に行われた。54ホールクラブ選手権を含む6ラウンドのうち、いい方のスコアから4ラウンドを選ぶのだが、約20人参加した中で奇しくも4年前と同じメンバーとなった。そのクラブ選手権で永井は昨年、今年と2連覇。好調を維持しての今大会でもあった。「皆さん、充実した練習をしていました。優勝のお祝いをしてあげなくてははいけませんね」と応援に駆け付けた田村三千雄総支配人にも嬉しい出費となる。

開催されたザ・マスターズ天草コースの難所と言われるのが、11番ミドル(394ヤード)。これまで多くのプレーヤーを苦しめたこのホールは今回も難易度一番。平均スコアは5・33で、トリプルボギー以上の選手が参加143人中23人もいた。中には「12」を叩いたプレーヤーも。フェニックスのこのホールの上位5人の平均スコアは「4・6」。3オーバーで耐えたのが優勝の一因になったのかもしれない。

《ベストグロス》 3大会ぶり2度目

5バーディー、2ボギー 69

竹本 健太(福岡雷山、41歳)



2018年以来、2度目のベストグロス。参加143人中ただ一人60台の3アンダー69である。5バーディー、2ボギー。

「ベストグロスは狙っていたので、狙って取れたのが嬉しい。ティーショットが良かったのでストレスのないゴルフができた」。8割以上フェアウエーをキープし、2個のボギーはいずれも3パット。危なげのないプレーを展開した。福岡県直方市で建築関係

やゴルフショップを運営する41歳。「10年前より安定して飛んでいる」と平均飛距離260～270ヤードのドライバーショットに自信を持っている。

《ザ・マスターズ天草コース》



